

1. 洋装着用時における皺特にスカートの場合に
ついて (第2報)

和洋女子大 伊藤秀三郎
村田八千代
滝沢 初美

1. 第1報において述べた如く、スカート着用時に於ける皺の数は地質により多少の相違があるが、着用時間

が長い程皺の数が多くはなるが、数には著しい変化がなく皺のより方の強さに問題点をみとめたので、この度は皺のより方の強さについてだけ吟味することを目的として次の諸点について実験をした。

2. 第1報の折に用いた実物スカートの残り布 30cm 平方位の布を用い、(ウール、カシミア、テトロン混紡のウースデットとトロピカル、木綿、等) まず適温のアイロンにて折りづけた後直ちにアイロンで消し、折りづけ時間と消し時間の曲線を求め、曲線よりのそれぞれの時間関係から皺のより方の強さを判定することにした。

3. 演者等の方法による皺のより方の判定法によって次の成果を得た。

皺のより方の強さは、

1. 地質の温度によって影響される。
2. 着用時間が長い程強い。